

2010.05.20 18:30～ (北海道大学原子核理論研究室)

1: 出席者

加藤^a・千葉^b・平林^b・松本^c・古立^{cd}・牧永^c・椿原^c

(a:委員長, b:議長, c:オブザーバー, d:書記)

2: 報告

- ND2010 に加藤が参加
- 理研との共同研究契約が 2012 年 3 月まで延長
- アジア核データ Workshop 10 月 25-29 日に決定
- IAEA の Workshop of EXFOR Editor Training(8/30-9/3)に研究員 2 名+1名参加予定

3: 議題

- 役割分担
 - EXFOR 送信 → 古立(引継ぎ)・椿原・木村
 - 送信作業+辞書更新+エラー報告という作業、IAEA への窓口
 - チェックや修正など、去年よりも負担を分散し、窓口業務中心の作業へ
 - データベース管理 → 松本
 - NRDF、EXFOR のマスター更新、辞書更新
 - 更新の方針: 多少のミスを恐れず公開を進める方向
 - CINDA の更新作業(半年に一回) → 椿原
 - 雑誌で分ける? 標的で分ける? → 方針が決まるまで Suspended (JAEA との分担を加藤さんが近日中の議論で決定)
 - 作業部会で検索結果を発表、データ請求作業との連動
 - データ請求 → 牧永
 - メリット: エントリーされた段階で担当が連絡をとると請求のスピードが上がる? (少なくとも EXFOR の採録に関しては)
 - 採録論文サーチを継続していくな、サーチの結果を発表する時に作業部会などで確認をとり、その上で著者に請求をかける様にする
 - NRDF/A → 古立&牧永
 - 長期的なスパンで開発を続けていく方向
 - RIKEN のデータ担当 → 椿原
 - 採録に関する我々としての窓口
 - 報告書作成など
 - Intelligent Pad 担当 → 松本
 - XML 形式での NRDF 整備、新 HENDEL 作成?
 - 庶務 → One for all, all for one.
 - Web ページ管理 etc...

→承認

- 管理運営委員会メンバーの NRDF ファイル作成への関わりについて
 - NRDF で採録する物理量の判断
 - 研究員が物理量のリストをつくりメールで送信、意見交換を行う。
 - 毎月の管理運営委員会で決定

→承認

- CINDA の採録方針について→IAEA の方針に従う。

→承認

次回開催予定日時 2010 年 6 月 21 日(月) 18 時 30 分～

次回開催予定場所 北海道大学原子核理論研究室